⑭
１ 超；
２ ００７ 年（平成１９ 年） ４月 ２６ 日（木曜日）
塵 ＿，騰
ｉｌ轟粛●
●マパ
る古屋ジイムス’
罐
顯
鵡
」←
闘
の
相
続
手
続
き
お
手
伝
い
急
激
に
進
行
す
る
社
会
の
高
齢
化。
課
題
の
一
つ
が
遺
産
相
続
だ
が
「
い
ざ
と
い
う
と
き
何
か
ら
始
め
て
い
い
の
か
分
か
ら
な
い
」
の
が
実
態
と
い
う。
厚
生
労
働
省
に
よ
る
と
国
民
全
体
の
年
間
死
者
は
現
在
の
１
０
０
万
人
か
ら
３０
年
後
は
１
７
０
万
人
に
急
増。
高
齢
者
の
病
死
な
ど
に
起
因
す
る
と
い
う。
社
会
制
度
の
激
変
も
予
想
さ
れ
る
中
「
相
続
手
続
支
援
セ
ン
タ
ー
名
古
屋
」（名
古
屋
市
天
白
区）
の
山
田
知
広
社
長（３６）
に
対
策
な
ど
”転
ば
ぬ
先
の
つ
え
”、
を
聞
い
た。
’
（敬）
高
齢
社
会
の
死
者
㈹．万
人
時
代
に
備
え
「
（故
人
が）
財
産
な
ど
の
中
に
は
“
プ
チ
資
産
家”
田
社
長
ら
３
人。
開
設
以
来、
を
生
前
か
ら
整
理
し
て、
遺
と
呼
ば
れ、
元
気
な
人
も
多
相
談
を
含
め
４０
件
近
く
を
手
書
を
残
し
て
い
れ
ば
別
で
す
い。
活
動
の
場
の
拡
大、
社
掛
け
た。
が、
現
実
は
そ
う
は
い
か
な
会
保
障
制
度
の
変
化
な
ど
今
山
田
社
長
は
「
役
所
に
も
い。
不
動
産、
預
貯
金、
現
後
も
手
続
き
は
多
岐
に
わ
た
無
料
相
談
は
あ
る
が、
一
般
、
金
の
引
き
継
ぎ
の
ほ
か、車、
株
券、
ゴ
ル
フ
や
ス
ポ
ー
ツ
ク
ラ
ブ
な
ど
の
会
員
権
の
名
義
変
更、
ク
レ
ジ
ッ
ト
カ
ー
ド、
携
帯
電
話
な
ど
の
解
約
と
停
止
な
ど
葬
儀
後
の
手
続
き
は
９０
種
類
以
上
あ
り
ま
す
」
と
山
田
社
長。
団
塊
世
代
以
上
の
高
齢
者
り
そ
う
と
い
う
。’
複
雑
な
手
続
き
を
手
軽
に
補
助、
代
行
す
る
の
が
民
間
の
相
続
手
続
支
援
セ
ン
タ
ー
（本
部
東
京
都）
で、
全
国
に
３２
カ
所
η
同
セ
ン
タ
ー
名
古
屋
は
県
内
３
拠
点
目
と
し
て
昨
年
１１
月
に
開
設。
ス
タ
ッ
フ
は
税
理
士
で
も
あ
る
山
家
庭
事
情
に
沿
借
金
の
放
棄
は
３
カ
月
以
内、
故
人
の
生
存
期
聞
の
準
確
定
申
告
は
４
カ
月
以
内、
飲
食
店
の
引
き
継
ぎ
な
ど
の
変
更
は
６０
日
以
内
ρ
手
続
き
を
始
め
る
目
安
は
「
四
十
九
日
法
要
ま
で
が
ベ
ス
ト
で
的
な
見
解
を
示
す
だ
け。
信
託
銀
行
で
も
手
続
き
の
代
行
は
す
る
が、
一
般
の
人
に
は
敷
居
が
高
い。
各
家
庭
の
実
「
で
す
」
と
言
い、
高
齢
社
会
情
に
合
わ
せ
た
支
援
を
迅
速
の
影
を
垣
間
見
る
と
い
う
、。
か
つ
気
軽
に
す
る
の
が
セ
ン
「
手
続
き
を
放
っ
て
お
け」
夕
１
の
狙
い
」
と
話
す
つ
ば、
払
わ
な
く
て
も
い
い
故
相
談
は
無
料
で、
手
続
き
人
の
住
宅
ロ
ー
ン
を
払
っ
た
の
代
行
な
ど
は
コ
ー
デ
ィ
ネ
り、
ク
レ
ジ
ッ
ト
カ
ー
ド
の
ー
ト
料
と
し
て
遺
産
総
額
の
保
険
金
が
返
還
さ
れ
る
の
に
０
．
３
％
。
５
０
０
０
万
円
’
も
ら
え
な
く
な
っ
た
り
と
い
な
ら
１５
万
円
と
い
う。
う
こ
と
も
あ
り
ま
す
」
と
山
深
刻
な
事
例
は
少
な
く
な
田
社
長。
っ
た
支
援
を
騨
謹
，
欄
欄
陶
遺
言
、
相
続
セ
ミ
ナ
ｉ
２８
貝
北区
、
㈱
」
響醐
犠
援欝
瓢
蟻
謬
励舗
糊
，
酪
鞍のの嶽
講
霧
鶴
彫
群
髄薗
ｉ
マ
に
し
た
セ
ミ
ナ
ー
を
開
（
０
１
２
０
）
１
３
４
８
６
催（
参
加
者
を
募
集
中。
４
。
当
日
は
ａ
Ｏ
７
０
（
５
繊
午
後
１
時
半
ー
４
時
半
。
５
５
２
）
６
７
４
５
へ
。
い
「ｑ
夫
婦
が
」
カ
月
の
問
に
，
相
次
い
で
亡
く
な
り、
そ
の
間
の
相
続
人
を
ど
う
扱
う
か
問
題
に
な
る
ケ
ー
ス
や
ご
主
人
に
愛
人
が
い
て
相
続
で
も
め
る
こ
と
も
あ
り
ま
し
た
。
最
近
の
傾
向
は
孤
独
死
案
件
は
」
と
い
う。
、せ
ら
れ
る
相
続
相
談
も
多
葬儀業
界と連
携
駅ど
鐸
笄
羅
本
格
的
な
高
齢
社
会
を
迎
司
法
書
士
ら
と
協
力
し
な
が
え、
葬
儀
業
界
の
動
向
も
ク
ら
遺
書、
相
続
で
の
分
割
協
ロ
ー
ズ
ア
ッ
プ
さ
れ
て
い
る
議
書
な
ど
を
作
成
す
る
ほ
・
が
、
葬
儀
後
に
遺
族
か
ら
寄
か、
自
身
の
半
生
や
財
産、
煮
ゾ瓢
黛
∴
家
族
へ
の
伝三＝目な
ど
を
形
式．
，
罎
．調
灘
雛
埋
鍵
ぬ
円）
を
発
売
す
る
な
ど
し
て
い
る
。
’
「
親
族
間
の
争
い
に
発
展
す
る
ケ
ー
ス
が
あ
り、
生
前
か
ら
の
準
備
は
必
要。
最
近
は
積
極
的
に
手
続
き
を
調
べ
る
人
も
増
え
た
が、
痛
感
す
る
の
は
日
ご
ろ
の
家
族
間
の
コ
ミ
ュ
ニ
ケ
ー
シ
ョ
ン
不
足。
親
の
意
思
や
子
ど
も
の
考
え
が
分
か
っ
て
い
る
家
族
は
パ
ニ
ッ
ク
に
な
ら
な
い
ん
で
す
が
ね
－」
（山
田
社
長）